



# いたいの いたいの 飛んで行け！



ハイハイを始める頃や歩き出しの頃は、ぶつかったり、ころんだりすることが多く、痛くて泣いたり、びっくりして泣いたりを繰り返します。

何度もあることで、「また」と思ってしまいがちですが、それでも直ぐに「痛かったんだねえ、ああ痛かった、痛かった」と痛い気持ちを受け止めてあげましょう。赤ちゃんは自分の気持ちに共感して貰うことを通して、気持ちを立て直していくことをおぼえます。

そのあとに気分を変えてあげられるのが、この「魔法」です。「いたいの いたいの 飛んで行け！」といいながら、痛がっている部分をやさしくなでます。実際に痛みが飛んでいく訳ではないけれ

ど、大好きな人たちが「魔法を使って痛みを取ってくれたんだ」と思うかもしれないですね。実際には、丁度痛みが引く頃合いなんでしょうけれど…。

このアレンジとして、「いたいの」のキャッチボールがあります。隣にいる人に「いたいの」をパスすると、隣の人はそのを受け止めて、別の人に「いたいの」をパスします。「いたいの」があっちこっちにパスされていく間に、パスが楽しくなって、痛みを忘れるかもしれませんね。